

令和5年度 学校マネジメントシート

【様式】

学校名 (北星高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		安心・安全な環境で、「自分ならではの学び」を支援する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・夢や希望の実現に向けて、主体的に学び、チャレンジすることができる生徒 ・知・徳・体のバランスのとれた生徒 ・社会に受け容れられ、社会的・職業的に自立できる生徒 ・お互いの人権を尊重し、多様な価値観を認め合える生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・北星高校教職員としての自覚を持ち、教職員間での情報共有を図り、チームとして対応できる教職員 ・寄り添いや傾聴の姿勢を重視し、個々の生徒の成長を支援することができる教職員 ・教職員としての使命感や責任感をもち、コンプライアンス意識の向上を図ることができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> 安心して学べる環境、学び直しなど個に応じた学習支援、心身の課題に応じた生活支援、自己実現に向けた活動支援</p> <p><保護者> 社会に出て自立できる力を身につけさせる支援</p> <p><地域> 生徒の公共心とマナーの育成による地域の安全安心、地域活性化への協力・貢献</p>	
	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p><家庭> 子どもの社会的自立ときめ細やかな支援、子どもの学習状況や本校の教育活動についての情報提供、安心して通わせられる学校環境</p> <p><中学校・高等学校> 多様な課題を抱えた生徒の学びのための連携、学びの場の提供</p> <p><地域> 地域行事や防災での学校施設の利用と生徒・教職員の協力</p> <p><関係機関> 生徒支援のための連携と情報共有</p>	<p><家庭> 本校の教育活動への理解と協力</p> <p><中学校・高等学校> 生徒の情報共有</p> <p><地域> 本校の教育活動に対する理解と支援</p> <p><関係機関> 生徒支援のための連携と情報共有、専門的知識の提供</p>

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、刷新したホームページを活用し、学校行事の様子や日常の教育活動の取組みなどの情報発信を積極的に行ってもらいたい。また、保護者や地域からの意見を受取る仕組みの充実をお願いしたい。 ・コロナ禍において実施を控えていた授業公開を再開し、一人一台端末を活用した新しいスタイルの授業の様子を、保護者や地域の関係者など多くの方が見学できる機会を設けてもらいたい。 ・学校で採用されている学習用端末はクロームブックであるが、将来にわたる継続的なパソコンの利用も念頭に置き、より広く普及している OS やアプリケーションの導入を検討してもらいたい。 ・生徒を褒めることは自己肯定感を高めることに繋がるので、日頃から生徒との対話に努め、積極的に生徒の行動を褒めることを意識した指導・支援を推進してもらいたい。 				
<p>(4) 現状と課題</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td data-bbox="268 600 379 1167" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>教育活動</p> </td> <td data-bbox="379 600 1522 1167"> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着が十分でない生徒や、特別な支援や配慮を必要とする生徒等が多数在籍している。 ・ユニバーサルデザインを意識した授業改善の継続や、ICT等を活用した個別最適な学びや協働的な学びの推進に取り組むことが必要である。 ・主体的な学びの推進に向けて、生徒の興味関心・意欲を引き出す授業づくりとともに、生徒の多様なニーズに対応できる教育課程の編成が課題である。 ・インクルーシブ教育実現のため、生徒の性格特性や心身の発達課題、背景などを教職員が十分に理解した上で、専門家や関係諸機関と連携して、一人ひとりの生徒に対応した指導・支援にあたる必要がある。 ○働きながら学ぶ生徒が減少し、社会参画や社会的自立に課題を抱えた生徒が多数在籍している。 ・実社会に出て社会人として自立して生きていくうえで必要な資質・能力を育成することが必要である。 ・集団生活の中で生徒が自らを律し、主体的に行動できるよう指導を充実させていく必要がある。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 1167 379 1561" style="text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>学校運営等</p> </td> <td data-bbox="379 1167 1522 1561"> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の「北星高校職員として働くこと」に対する満足度は高く、チームワークを大切にする雰囲気がある。 ・業務分担の偏りと多忙感の解消のため、業務内容の精選や効率化を図るとともに、業務をチームで行う協力体制の構築と職員間のコミュニケーションの活性化が必要である。 ○教職員・保護者・地域・関係諸機関との連携を強化し、非常勤職員や外部の教育力も含めた「チーム北星」により、生徒個々の成長を支援する体制づくりが課題である。 ・「チーム北星」で生徒を支援するために、学校、保護者、地域が連携した教育活動の機会の創出が課題である。 </td> </tr> </table>	<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着が十分でない生徒や、特別な支援や配慮を必要とする生徒等が多数在籍している。 ・ユニバーサルデザインを意識した授業改善の継続や、ICT等を活用した個別最適な学びや協働的な学びの推進に取り組むことが必要である。 ・主体的な学びの推進に向けて、生徒の興味関心・意欲を引き出す授業づくりとともに、生徒の多様なニーズに対応できる教育課程の編成が課題である。 ・インクルーシブ教育実現のため、生徒の性格特性や心身の発達課題、背景などを教職員が十分に理解した上で、専門家や関係諸機関と連携して、一人ひとりの生徒に対応した指導・支援にあたる必要がある。 ○働きながら学ぶ生徒が減少し、社会参画や社会的自立に課題を抱えた生徒が多数在籍している。 ・実社会に出て社会人として自立して生きていくうえで必要な資質・能力を育成することが必要である。 ・集団生活の中で生徒が自らを律し、主体的に行動できるよう指導を充実させていく必要がある。 	<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の「北星高校職員として働くこと」に対する満足度は高く、チームワークを大切にする雰囲気がある。 ・業務分担の偏りと多忙感の解消のため、業務内容の精選や効率化を図るとともに、業務をチームで行う協力体制の構築と職員間のコミュニケーションの活性化が必要である。 ○教職員・保護者・地域・関係諸機関との連携を強化し、非常勤職員や外部の教育力も含めた「チーム北星」により、生徒個々の成長を支援する体制づくりが課題である。 ・「チーム北星」で生徒を支援するために、学校、保護者、地域が連携した教育活動の機会の創出が課題である。
<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着が十分でない生徒や、特別な支援や配慮を必要とする生徒等が多数在籍している。 ・ユニバーサルデザインを意識した授業改善の継続や、ICT等を活用した個別最適な学びや協働的な学びの推進に取り組むことが必要である。 ・主体的な学びの推進に向けて、生徒の興味関心・意欲を引き出す授業づくりとともに、生徒の多様なニーズに対応できる教育課程の編成が課題である。 ・インクルーシブ教育実現のため、生徒の性格特性や心身の発達課題、背景などを教職員が十分に理解した上で、専門家や関係諸機関と連携して、一人ひとりの生徒に対応した指導・支援にあたる必要がある。 ○働きながら学ぶ生徒が減少し、社会参画や社会的自立に課題を抱えた生徒が多数在籍している。 ・実社会に出て社会人として自立して生きていくうえで必要な資質・能力を育成することが必要である。 ・集団生活の中で生徒が自らを律し、主体的に行動できるよう指導を充実させていく必要がある。 				
<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の「北星高校職員として働くこと」に対する満足度は高く、チームワークを大切にする雰囲気がある。 ・業務分担の偏りと多忙感の解消のため、業務内容の精選や効率化を図るとともに、業務をチームで行う協力体制の構築と職員間のコミュニケーションの活性化が必要である。 ○教職員・保護者・地域・関係諸機関との連携を強化し、非常勤職員や外部の教育力も含めた「チーム北星」により、生徒個々の成長を支援する体制づくりが課題である。 ・「チーム北星」で生徒を支援するために、学校、保護者、地域が連携した教育活動の機会の創出が課題である。 				

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの習熟度や学習のスタイルを踏まえ、柔軟な学習システムを構築する。 ・丁寧でわかりやすい授業を展開し、基礎学力の定着を図るため、学習端末を活用した学び等を推進する。 ・多様な学習成果を卒業に必要な単位として認定し、生徒の主体的な学びを促進する。 ・通級による指導を実施し、自立活動の授業をとおして、学習面ならびに生活面での困難の改善・克服に向けた支援を行う。 ・生徒の主体性やコミュニケーション力を育むため、生徒を中心とした学校行事の企画・運営や、キャリア教育等の充実により、自己肯定感を高める教育を推進する。
-------------	---

	<p>【通信制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートの丁寧な添削やスクーリングでの学習方法の指導により、生徒が学習内容について理解を深められるようにする。 ・多様な科目選択やNHK高校講座の活用、定時制課程の授業の併修などにより、生徒による「自分ならではの学び」を推進する。 ・スクーリングでの効果的なICT活用を含めた授業改善に取り組む。 ・生徒が自学自習をやり遂げるための指導や、LHR・行事の工夫などにより、生徒の自主性や計画性を育む。
学校運営等	<p>○組織力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時制・通信制が一体となった持続可能な学校運営を行うため、情報共有のしくみと協力関係を構築する。 ・生徒の成長と自立を支援するため、教職員・保護者・地域・関係諸機関との連携体制を強化する。 ・教職員の指導力や授業力の向上を図り、業務の平準化についても継続的に検討し、負担軽減に努める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
主体的な学びの推進	<p>【教務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が必要としている学習活動を提供できるよう、教育課程の編成に努める。 ○生徒が「学ぶよろこび」を見だし、さらには夢や希望の実現につながるような、生徒の主体的な学びの実現をめざす。 <p>(1) 個に応じた学習支援</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修相談・受講指導期間と面談週間の設置(各年2回) ・定時制履修ガイダンス実施(年1回+昼間部1年次向け1回) <p>(2) 授業・スクーリング改善</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業・スクーリングにおけるICT機器・学習端末の活用 ・生徒による授業・スクーリング評価(年2回) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員評価、生徒自己評価ポイント9割以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程2年目となり、旧課程科目から新課程科目への移行を進めた。 ・前期末、後期末に履修相談・受講指導期間を設け、各生徒が自分ならではの学習計画を立てられるよう指導した。定時制では、1年次生対象に7月にも履修登録の説明会を実施した。 ・5月と12月に、生徒による授業・スクーリング評価アンケートを実施した。定時制では5段階評価で、生徒自己評価は5月 4.29、12月 4.39、教員評価は5月 4.32、12月 4.45で、目標の9割に届かなかったが、5月に比べ12月は上昇した。通信制では4段階評価で、生徒自己評価は5月 3.87、12月 3.84、教員評価は5月 3.84、12月 3.83で、目標の9割を達成できた。 	◎

<p>安心安全な学校づくり</p>	<p>【人権学習】 ○あらゆる教育活動において人権教育を推進する。 ○講演会、総合的な探究の時間、LHR、学校行事などのさまざまな教育活動を通じて仲間づくりを推進する。 ○個別の人権問題や差別の現状について学ぶことで、人権の意義と重要性を理解し、自他の人権を尊重できる人権感覚を育む。</p> <p><定時制> 【活動指標】 ・総合的な探究の時間に人権学習を実施する。(2回)</p> <p>【成果指標】 ・「夢ノート」において「興味をもった内容や新たな気づきがあった」生徒 70%以上</p> <p><通信制> 【活動指標】 ・LHRや総合的な探究の時間等に人権に関する学習を実施(複数回)</p> <p>【成果指標】 ・人権LHRへの参加人数の増加</p>	<p>教員向けの人権研修会を行い、人権教育に関する知識を深めた。 ◎</p> <p><定時制>定時制では1回目は6月1日に絵本「さっちゃんのまほうのて」(障がい者の人権問題)、2回目は11月30日に「さっちゃんのまほうのて」モデルとなった親子さんの人権講演会を開催した。「自分事として積極的に取り組めた」「人権の大切さを理解して取り組めた」と回答した生徒は1回目2回目ともに84%となった。</p> <p><通信制>10月19日に木曜コース生に、10月29日に日曜コース生にそれぞれ人権LHRを行った。学年ごとにテーマを設け、労働者の権利、デートDVなど具体的なものを題材にした内容もあれば、チューターからの人権に関するメッセージを伝えるものや、生徒同士の交流を通して価値観の多様性に触れてもらうような活動を伴う内容もあった。生徒の出席は任意なので、学年が上がると出席率は低くなるが、全学年が計画通りに実施することができた。生徒の感想は人権LHRに参加し取り組んだことに対して良い学びの機会になったととらえているものが多かった。</p>	◎
	<p>【生徒指導】 ○いじめのない、「安心」して学校生活を送ることができる、「安全」な学校づくりを推進する。また、生徒一人ひとりが「命を守り、命を大切にする」意識を持つための啓発を行う。</p> <p><定時制> ・生徒の情報を収集し、職員間で情報共有に努める。問題行動の未然防止や早期対応をすることで生徒一人ひとりが安心・安全に学べる、いじめのない、環境を整える。</p> <p>【活動指標】 ・いじめに特化した学習・研修を実施する。 ・学校生活アンケートを実施する。(年間3回) ・年間を通じた継続的な校内外の巡回を行う。</p>	<p><定時制> ・いじめに特化した、生徒向けの学習、および職員の研修を実施した。◎ ・総合的な探究の時間等を利用して、交通安全、薬物乱用防止、SNSの適正利用等について注意喚起を行い、命の大切さにふれる講話を行った。 ・相談機関の案内等のプリントの校内掲示や各家庭への郵送等、機会あるごとに生徒、保護者に伝えた。</p>	◎

<p>安心安全な学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式、終業式、長期休暇前等の集会時の講話で命の大切さについてふれる。 ・総合的な探究(学習)の時間において、5月「交通安全」教育、12月「SNS・インターネット利用」教育を実施する。 ・授業規律を徹底する。 <p><通信制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にいじめを許さない心や相手を思いやる心を身につけさせることで、みんなが安心して学校生活を送れるように安心・安全に学べる環境を整える。 <p>交通安全教育を実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートを実施する(年間3回) ・職員による年間を通じた継続的な巡回を行う。 ・特別活動等の時間を利用し、仲間作り、いじめ防止、交通安全に関する学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報端末等を利用した案内・相談等も実施した。 ・授業規律が乱れぬよう、巡回指導等を実施し、問題行動の未然防止に努めた。 <p><通信制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時制の交通安全講話に一部参加するとともに、全体に動画を配信して交通安全教育を行った。 ・学校生活アンケートを年間3回実施した。いつでも相談できるいじめ相談窓口を利用して、いじめの早期発見と防止に取り組んだ。 ・仲間作り講演会の動画を配信し、LHRでも取り上げることで、いじめを許さない心や相手を思いやる心を身につけさせることができた。 ・Google Classroomでいじめ防止・生命の安全教育などのリーフレットを配信し啓発を行った。 ・年間を通じて巡回を行った。 ・全生徒への情報発信の手段として、Google Classroom等の一層の活用が今後の課題である。 	<p>◎</p>
	<p>【進路指導】</p> <p><定時制></p> <p>○キャリアデザインセミナーおよび進路LHRの充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路に関して興味関心が高まり、参加出席してよかったと思えるキャリアデザインセミナー・進路LHRづくりを行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」においてキャリアデザインセミナーを、年4回実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート(「夢ノート」)において生徒の満足度80%以上 <p><通信制></p> <p>○進路ガイダンスを中心にしたキャリア教育の充実を努める。</p> <p>○ソーシャルスキルを意識した授業づくりとLHRの運営を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスを3回(5時間)実施する。 	<p><定時制></p> <p>キャリアデザインセミナーを4回実施した。特に2回目は、部をまたいでの参加を試験的に試み、大きな成果があった。振り返りの満足度は96.2%(昨年94.6%、一昨年96%)であった。生徒たちが前向きに参加したということと共にセミナー内容が合致していたと言える。この結果をもとに、より一層満足できるセミナーを目指して、次年度以降も行っていきたい。</p> <p><通信制></p> <p>学校行事にキャリア教育を位置づけたものが定着してきており、計3回実施した。振り返りの満足度も参加生徒の90%以上が「大変役立つ」「役立つ」と回答している。</p>	

<p>安心安全な学校づくり</p>	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートのアンケートにおいて生徒の満足度80%以上 <p><定通共通支援の促進></p> <p>○定時制、通信制合同での進路支援の促進および定時制進路行事への通信制生徒の参加を促す。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職選考委員会後の試験対策を定通合同で催す。 ・通信制卒年次生を中心に定時制キャリアデザインセミナー②への参加を募る。 	<p><定通共通支援促進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時制と通信制が同室となり、進路指導室内での情報共有が密にできた。 ・事務職として5名の内定をいただき、来年度へ希望がつけられた。 ・就職・進学の説明会の合同開催をしてきた。特にキャリアデザインセミナー②へは通信制からも毎年参加があったが、今年度はカリキュラム上困難であった。 	
<p>社会的自立を促す支援</p>	<p>【保健】</p> <p>○個に応じた指導・支援の充実に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室から情報発信し、定時制各部・通信制・各分掌等と連携を図り、生徒一人ひとりを尊重し、個に応じた指導・支援を実践する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや教育相談員との情報共有を密にし、連携して生徒の指導・支援を行う。(教育相談) ・対象生徒の実態を把握し、チューター・生徒・保護者との面談を通して個別の教育支援計画を作成・活用する。(特別支援) ・集団に入ることが困難な生徒に対し、通常教室での学習に戻る力を育むために教員とのマンツーマンでの学習支援を実施する。(個別支援) 	<p>(教育相談)</p> <p>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの情報共有を毎回実施し、助言を得ながらチューターとも連携して生徒への支援を行った。</p> <p>(特別支援)</p> <p>必要に応じて、チューター・生徒・保護者が発達支援員と面談を行い、個別の教育支援計画を6月中旬に作成をした。</p> <p>(個別支援)</p> <p>通信制システムを利用した個別の支援を実施した。</p> <p>前期 6名・後期 10名利用</p>	<p>◎</p>
<p>改善課題</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習や生活に困難を抱える生徒等の多様なニーズに応えられるよう、引き続き教育課程の工夫や新しい学校設定科目の検討、学習端末の活用、「通級による指導」の実施等に取り組む必要がある。 ・生徒の心のケアや環境の改善に向けて、保健部を中心に、各分掌・各部、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの連携した取組が必要である。また、学校だけで解決することが困難な課題については、市役所、児童相談所、警察、医療機関等との連携・協力を進める必要がある。 ・生徒が「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができる人権感覚を身に付けられるよう、人権教育と生徒指導の充実に努める必要がある。また、個々の教職員のいじめに対する感度を高めるだけでなく、組織的に問題に取り組む体制を整備・強化する必要がある。 			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

項目	取組内容・指標	<>結果	備考
<p>「チーム北星」の協力体制の構築</p>	<p><全般> ○校務に関する情報共有を通して分掌・部・課程間の連携協力関係を創出する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種委員会等の定期的な開催及び構成メンバーの見直し ・定通併修生徒の学習状況についての情報共有 ・「総合的な探究の時間」における地域人材の活用 <p><総務> ○保護者・地域等への情報提供の充実を図るとともに地域連携を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の閲覧者に対してわかりやすく、的確な情報発信を実現すべくホームページを随時更新し、最新の情報を発信する。 ・防災教育や合同避難訓練を通して地域との連携を図り、防災の啓発に寄与する。 <p><PT(学校マネジメントプロジェクト会議)> ○職場の環境改善と職員研修の充実を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートを実施し、意見をもとに改善を図る。 ・現職教育により、職員の研修を実施する。(年4回) <p>○職員間のコミュニケーションの充実とチームワークの向上を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTメンバーを中心に、各分掌や定時制・通信制の意見を集約し情報共有を行うことで、職場の雰囲気向上に努める。 <p>【成果指標】 教職員間に互いに協力・連携する雰囲気がある」割合が70%以上</p>	<p><総務></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかりやすく、迅速に」を意識し、随時ホームページを更新することができた。本年度は、昨年度天候不良で実施できなかった、地域の方々と職員、生徒合同による二次避難所への避難訓練を行うことができた。その結果、昨年度からの地域連携が評価され、「みえ防災大賞特別賞」を獲得した。次年度以降も合同での避難訓練等を計画し地域の防災に対する啓発を行っていく。 <p><教務></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時制、通信制教務部にそれぞれ併修担当者を置き、情報共有をしている。併修生を受け持つチューターが、他課程の理解を深め、併修生の指導をしていけるようにすることが課題である。 <p><PT></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初のアンケートをもとに、職員室専任席への電話機の設置等、職場環境の改善に努めることができた。 ・職員の研修の充実を図ることができた。(今年度6回実施) ・教職員満足度調査での「教職員間に互いに協力・連携する雰囲気がある」項目は満足度69.1であった。(昨年度は66.7%) 	◎
<p>資質向上の取り組み</p>	<p><全般> ○教職員一人ひとりが教育公務員としての自覚を持ち、県民の期待と信頼に応えていくためにコンプライアンス意識の向上に努める。</p> <p>○全体でのコンプライアンス研修に加えて、定時制各部・通信制・チーム・グループ単位で年3回以上研修会を実施する。</p> <p><教務> ○授業・(スクーリング)力向上に努める。</p>	<p><全般></p> <p>全体でのコンプライアンス研修を3回実施した。加えて、各部署単位で2回以上のコンプライアンスミーティングに取り組んで、意識の向上を図った。</p> <p><教務></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で中止していた授業・スクーリング公開を5月、12月に実 	◎

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業・スクーリング公開及び職員による授業・スクーリング見学週間を実施する。(年2回) <p>○適切な履修相談・受講指導ができるよう、カリキュラムへの理解を深める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修相談・受講指導に関する研修を実施する。(1回以上) 	<p>施した。併せて校内の授業・スクーリング見学週間を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修相談・受講指導の開始に向けて、定通それぞれで職員向け説明会を実施した。 ・定時制では、履修登録の誤りが複数あった。次年度に向けて、カリキュラムへの理解を深めるとともに、チェック体制を整えていきたい。 	
<p>職場環境改善</p>	<p><全般></p> <p>○職場の環境向上に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の効率化を図り、教職員が働きやすい環境づくりを推進するため、総勤務時間縮減の取組として、以下の4項目に取り組む。 <p>(1)定時退校日を月2日以上設定し、達成率90%以上</p> <p>(2)部活動休養日を週2日以上設定し、達成率100%</p> <p>(3)1時間以内に終了する会議90%以上</p> <p>(4)学校閉校日を年5日以上設定(8月・12月)</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1)時間外労働時間を平均月10時間／人以内</p> <p>(2)月45時間を超える時間外労働者の延べ人数を0人</p> <p>(3)年360時間を超える時間外労働者の人数を0人</p> <p>(4)休暇取得日数を年間15日／人以上</p> <p><総務></p> <p>○生徒清掃時に行う職員のクリーンタイムを始めとして、職員によるトイレ清掃や休憩室の清掃など、常日頃から職員の美化意識の向上を図る。</p>	<p><全般></p> <p>【活動結果】12月末現在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日達成率 96% ・部活動休養日達成率 100% ・スマート会議達成率 78% ・学校閉校日 年5日設定 <p>【成果】 12月末現在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均時間外労働時間 定時制 6.2時間 通信制 7.8時間 ・月45時間超、年360時間超 月45時間超 延べ人数18人 年360時間超 2人 ・平均休暇取得日数 定時制 14.3日 通信制 13.5日 <p><総務></p> <p>クリーンタイムや、トイレ清掃、休憩室整理を通して職員の美化意識を向上することができた。今後も率先して取り組むことにより、美化意識のさらなる向上を図って行きたい。</p>	<p>◎</p>
<p>改善課題</p>			
<p>・全職員（非常勤講師を含む。）を対象として、コンプライアンスミーティングを実施し、学校職員による不祥事の具体例を取り挙げながら研修を行った。個人間のズレをなくすため、不祥事防止に関する一般的な知識だけでなく、具体的な基準を共有できるよう引き続き取り組みを進めていく必要がある。</p> <p>・業務の効率化、学校行事の見直し、業務分担の適正化等を進め、教職員の多忙感や業務分担に関する不公平感を減らす必要がある。</p>			

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習活動について、生徒自己評価と教員評価の結果を踏まえ、教員の現状認識が、生徒の実感（学ぶよろこびや学ぶ意欲）と乖離していないか確認することが必要ではないか。 また、生徒や保護者が、卒業後の進路や生活上の悩み等を相談できる環境整備が必要ではないか。 ・人権教育のテーマや目標をより明確化し、人権教育の目的を生徒自身が理解できるようにすることが望ましいのではないか。 ・地域と連携した防災教育の取組が対外的に評価されているにもかかわらず、この体験活動が北星高校の強みとして十分にアピールできていないのではないか。この防災教育をとおして、生徒にどのような力を育むのか明確にしてはどうか。 ・不祥事根絶に向けて、法律、条令、規則等のほか、教職員が道徳的・倫理的に正しく行動するための基準を明示的に規定してはどうか。 ・教職員が働きやすい環境づくりのためには、個人で業務の効率化に取り組むというより、学校課題に対する組織的対応等の仕組みが必要ではないか。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートや面談を通じて生徒の実態把握を行い、わかりやすい授業の実践に努める。 また、生徒の課題やニーズに合わせて新しい学校設定科目の設置を検討する。 ・生徒や保護者の相談内容に応じて、チューターや教育相談係、養護教諭の他、SC や SSW など多様な職員と気軽に対話ができる体制を整える。 ・学校 HP や学校説明会等をとおして、北星高校の特色や魅力ある取組（防災教育等の体験活動や定時制や通信制の特色ある教育活動等）を対外的にアピールする。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修をとおして、国や県が示す法律や条令を全教職員が正しく理解できるようにするとともに、教職員の行動規範について話し合う機会を設け、知らず知らずのうちにコンプライアンス違反を犯すことのないようにする。 ・外部人材の活用を含めた「チーム学校」としての協働体制の構築を進め、学校を取り巻く課題の多様化・複雑化に、よりよく対応することで教職員の働き方改革を推進する。